

① 光秀と称念寺

江戸時代中期に出版された軍記物語『明智軍記』には、光秀が弘治2年(1556)に美濃みのから越前に来て、ゆかりの僧がいた長崎の称念寺しょうねんじ(坂井市)領内に妻子を預け置き、諸国武者修行に出かけたことが記されています。

『明智軍記』の記載は信憑性が低いとされることから、真偽の程も疑問視されてきましたが、近年『遊行三十一祖京畿御修行記』ゆぎょうさんじゅういちそけいきごしゅぎょうきというほぼ同時代の史料に「明智十兵衛尉あけちじゅうべえのじょう(略)越前朝倉義景頼たのみ被申もうされ、長崎称念寺門前に十ヶ年居住」との記載が確認されました。

これにより、光秀が朝倉氏を頼って越前に来たこと、称念寺門前に10年間住んでいたことが明らかになりました。



称念寺門前(坂井市丸岡町長崎)